

JTBF 観光経済レポート vol. 8 (2005.9)

観光経済 2005年4 - 6月期の総括と今後の見通し

国内旅行 ~ 宿泊旅行は4期連続でマイナス、日帰り旅行にシフトか

- ・ 4-6月期の延べ宿泊旅行者数は前年同期比 4.1%と、04年7-9月期から4期連続のマイナスとなった(「JTBF 旅行量調査」)。昨年の曜日配列の反動でGWの旅行が減少した他、土曜日出発の旅行が減少している。旅行形態では出張旅行が減少し、帰省や家事旅行が増加した。
- ・ 平均泊数は1.72泊で前年同期から1.7%の微減、旅行単価も38,800円と1.8%減少した。
- ・ 一方「JTBF 観光地動向調査」における4-6月期の観光客数の伸び率は平均0.8%増と、日帰り客増加が寄与した。DI値も10.0%ポイントと1-3月期の30.7%ポイントから回復した。
- ・ 地域別では「関東」がGW期間の好天もあって9.3%増と伸びた他、「九州」「沖縄」も好調であった。天候不順だった「北海道」、JR福知山線の脱線事故に見舞われた「近畿」ではマイナスが目立った。愛知万博開催中の「東海」は2.1%の微増となった(開催地自治体を含まず)。
- ・ 観光施設ベースでみた利用者数の前年同期比は1.6%増だが、売上高の平均は1.6%と減少している。消費単価の比較的低い日帰り客の比率が高まったことも一因とみられる。
- ・ 施設タイプ別では、「お祭り・イベント」16.0%増、「体験プログラム」8.4%増、「遊園地・テーマパーク・公園」4.3%増などの好調が目立つ。
- ・ 7-9月期の観光客数見通しDIは11.3%ポイント、10-12月期2.8%ポイントとなった。
- ・ 「北海道」の半年間の見通しは依然厳しいが、知床の世界遺産登録効果に期待が寄せられている。「沖縄」は7-9月期25.0%ポイントと好調が続く見込みである。10-12月期は昨年の悪天候の反動もあり、西日本でプラスの見通しが多い。
- ・ 「JTBF 宿泊客動向調査」によると4-6月期の「旅館」の客室稼働率は54.1%(前年同期比2.3%)と低下が続いている。1泊2食単価は13,485円(同0.3%)とほぼ横ばいである。
- ・ 「ホテル」の客室稼働率は68.9%(同1.5%)と増加した。愛知万博によるインバウンドを含めた宿泊需要の拡大で「東海」が12.6%増と好調だった。他に、ネット販売の増加も要因としてあげられている。ルームチャージは8,883円(0.1%)と下げ止まってきている。
- ・ 宿泊客数の見通しDI値は、旅館で7-9月期が27.5%ポイントと厳しい数値だが、10-12月期は0.3%ポイントと改善が見込まれている。「東海」地域では愛知万博閉幕の反動減を予想している。ホテルでは7-9月期4.8%ポイント、10-12月期0.2%ポイントとなっている。

海外旅行 ~ 伸び率3.7%、反日デモ報道で中国・韓国が減少

- ・ 4-6月期の海外旅行者数は397万人、前年同期比は3.7%増で、1-3月期の16.1%に比べ伸びが鈍化した。中国での反日デモや韓国との間の竹島領有権問題の影響が大きかった。両国とも、5月、6月が10%前後のマイナスになった。
- ・ 「JTBF 海外旅行デスティネーション調査」における各国政府観光局の日本人見通しDIは、7-9月期が13.6%ポイント、10-12月期が59.1%ポイントとプラスを維持している。

外国人旅行 ~ 反日感情で伸び悩むも増勢を維持

- ・ 4-6月期の訪日外国人数は前年同期比7.1%増の166万人と好調を維持した。韓国、中国については4月から5月にかけて反日感情の高まりで伸びが鈍化した、6月には回復しつつある。

財団法人日本交通公社 (Japan Travel Bureau Foundation)

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.jtb.or.jp>

tel:03-5208-4704 fax:03-5208-4706

< 調査概要 >

(調査 1) JTBF 旅行量調査

- ・ 調査期間：各年 1、4、7、11 月の各月の 10 日間
- ・ 調査対象：全国 15～79 歳の個人（層化多段無作為抽出法による）
- ・ 調査方法：訪問留置調査
- ・ 調査数：各回 2,200 人
- ・ 有効回答数：各回 1,250 人前後
- ・ 調査項目：「旅行回数」「旅行内容（旅行形態・出発日・期間・費用など）」

(調査 2) JTBF 観光地動向調査

- ・ 調査期間：2005 年 8 月 5 日～8 月 22 日
- ・ 調査対象：全国の自治体観光主管課、主要観光施設
- ・ 調査方法：e-mail または郵送にてアンケート票を送付、FAX で回収
- ・ 調査数：自治体 3,148 件、観光施設 420 件
- ・ 有効回答数：自治体 742 件(回収率 23.6%)、観光施設 151 件(回収率 36.0%)
- ・ 調査項目(自治体)：「2005 年 4-6 月期の観光客数」「GW の観光客数」
「地域内主要観光施設の利用者数と売上」「今後の見通しと要因」
「管轄地域内の観光施設の内容・規模」「観光地のタイプ」
「観光客数の規模」
- ・ 調査項目(観光施設)：「施設の利用者数と売上」「GW の観光客数」「今後の見通しとその要因」

(調査 3) JTBF 宿泊客動向調査

- ・ 調査期間：2005 年 8 月 2 日～9 月 2 日
- ・ 調査対象：全国の旅館、ホテル、国民宿舎等公的宿泊施設、ペンション、民宿
- ・ 調査方法：e-mail またはファクスにてアンケートを送付
当財団のホームページへの自記載またはファクスにて回収
- ・ 調査数：7,346 軒 *今回の調査では新潟県中越地震の被災地へのアンケート実施を控えた。
- ・ 有効回答数：988 軒（回収率 13.4%）
旅館 391 軒、ホテル 495 軒その他（公的宿泊施設、ペンション、民宿）102 軒
- ・ 調査項目：「客室稼働率、定員稼働率」「宿泊単価」「2005 年 4-6 月期動向（自由回答）」
「今後の見通しとその理由」

(調査 4) JTBF 海外旅行デスティネーション調査

- ・ 調査期間：2005 年 8 月 22 日～8 月 26 日
- ・ 調査対象：日本国内の各国政府観光局
- ・ 調査方法：郵送にてアンケート票を送付、FAX にて回収
- ・ 調査数：63 件
- ・ 有効回答数：28 件（回収率 44.4%）
- ・ 調査項目：「全渡航者数および日本人渡航者数」「渡航者数、観光消費の見通し」
「日本人観光客の特徴的な動向」

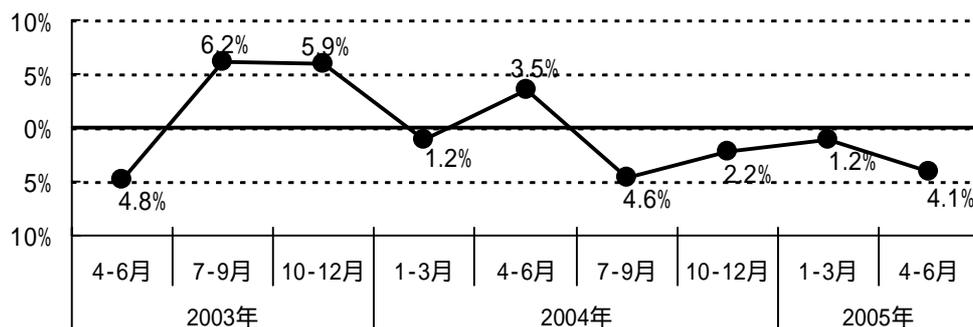
1. 国内旅行

(1) 旅行者

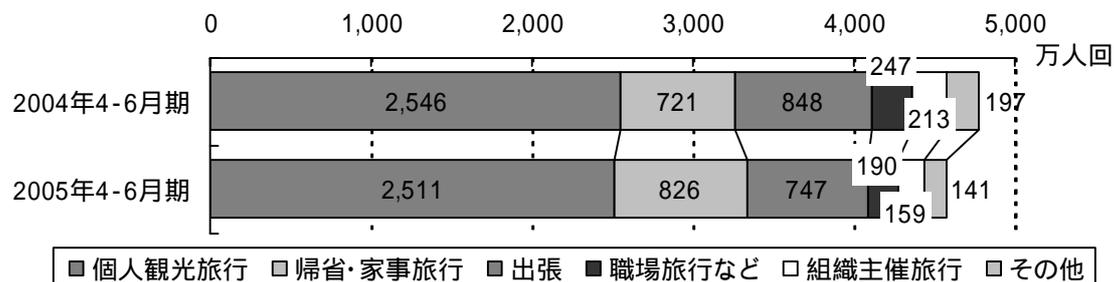
国内宿泊旅行者数 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 7 月に実施した「JTBF 旅行量調査^{調査1}」によると、2005 年 4-6 月期の 15~79 歳の延べ国内宿泊旅行者数^{*1}は 4,574 万人回 (速報値) と推計され、前年同期の 4,772 万人回 (改訂値) に比べ 4.1% 減少した。愛・地球博 (以下、愛知万博) 開催地周辺への宿泊旅行は増加したが、全体としては前年同期の好調の反動や宿泊出張の減少などが影響して前年比マイナスとなった。発地別にみると近畿地方発の旅行が大きく落ち込んでおり、4 月に発生した JR 福知山線の脱線事故が旅行意欲を減退させる一つの要因となった可能性がある。

旅行形態別にみると、前年同期と比べて「個人観光旅行^{*2}」は微減、「帰省・家事旅行^{*3}」は増加、「出張」は減少した。団体旅行では「職場旅行など^{*4}」「組織主催旅行^{*5}」ともに減少している。



図表 1-1 国内宿泊旅行者数 (前年同期比) の推移



注) 小数点以下を四捨五入しているため、グラフ中の数値の合計が合わない場合がある

図表 1-2 旅行形態別にみる国内宿泊旅行者数

*1 14 歳以下および 80 歳以上の旅行者数は含まれていない
 *2 プライベートで (個人的に) 観光や休養、レジャーを目的とする旅行
 *3 帰省や冠婚葬祭、法事、介護、見舞といった家事を目的とする泊りがけの外出
 *4 職場の慰安旅行や招待・報奨旅行など
 *5 町内会や農協、宗教団体等が主催する国内旅行、又は学校の国内修学旅行

旅行単価 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の平均旅行単価 (速報値) は 38,800 円 / 人回であり、前年同期の平均旅行単価 39,500 円 / 人回 (改訂値) に比べて 700 円 / 人回 (1.8%) 減少した。

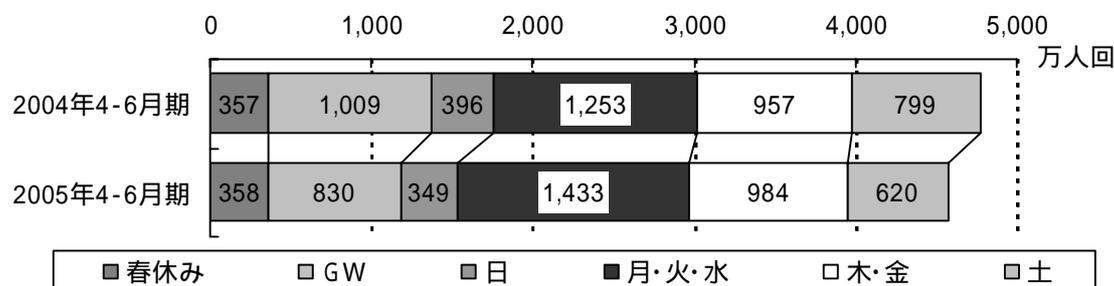
宿泊数 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の平均泊数 (速報値) は 1.72 泊 / 人回で、前年同期の平均泊数 1.75 泊 (改訂値) に比べて 0.03 泊 (1.7%) 減と概ね横ばいだった。

旅行の出発日 (2005 年 4-6 月期)

前年に比べて「春休み^{*6}」の国内宿泊旅行者数は横ばい、「ゴールデンウィーク^{*7} (以下、GW)」の同旅行者数は減少した。今年 2005 年の GW は長期休暇の取りやすい曜日配列で、かつ天候にも恵まれたが、前年 2004 年の GW が例年に比較して好調だったことから、その反動を受けたことが一因とみている。

これらの連休を除いた曜日別の国内宿泊旅行者数をみると、前年同期に比べ「月・火・水」曜日出発の同旅行が増加した一方で、「土」曜日出発は 2 期連続で減少した。



注 1) 「日」「月・火・水」「木・金」「土」には、「春休み」「GW」の該当期間中に含まれない旅行量を計上
注 2) 小数点以下を四捨五入しているため、グラフ中の数値の合計が合わない場合がある

図表 1-3 旅行の出発日別にみる国内宿泊旅行者数

*6 2005 年 4 月 1 日 (金) ~ 7 日 (木) の 7 日間 (2004 年は 4 月 1 日 (木) ~ 7 日 (水) の 7 日間)
*7 2005 年 4 月 28 日 (木) ~ 5 月 4 日 (水) の 7 日間 (2004 年は 4 月 28 日 (水) ~ 5 月 4 日 (火) の 7 日間)

(2) 観光地

観光客数の動向 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 8 月に実施した「JTBF 観光地動向調査^{調査2}」によると、2005 年 4-6 月期の観光客数⁸の前年同期比は全体平均 0.8%増であった。DI⁹は 10.0%ポイントとなり、前期調査 (2005 年 1-3 月期) の同 30.7%ポイントに比べると、大きく回復した。

地域別にみると、「北海道」は週末の天候不順、雪解けが遅かったことやGW中の天候不順などにより、観光客数は前年同期比 7.8%減であった。「東北」は例年になく豪雨や雪解けの遅れにより観光客数が減少した観光地があったものの、桜の見頃が 2 週間にわたり、天候に恵まれたことなどから同 0.4%増となった。「関東」は休日やGW期間の好天が影響して観光客数は同 9.3%増であった。「甲信越」の観光客数は今年の豪雨や地震災害による風評被害などの影響により同 3.6%減であった。「東海」の観光客数は愛知万博の影響により減少した観光地もみられたものの、地域全体では愛知万博がプラス要因となり、また熊野古道の世界遺産登録 (2004 年 7 月) による影響が引き続き見られたことから同 2.1%増であった。「北陸」はイベントの開催や、新規施設のオープンなどにより同 1.3%増となった。「近畿」の観光客数は春先の気温が高く桜の開花期間が短かったことに加え、4 月は雨天によりイベントの集客が伸びなかったことなどから同 8.1%減となった。「中国」の観光客数は愛知万博開催の影響により減少したとする観光地もあるが、映画ロケ地としてのPR活動の効果や新規施設の開業で観光客数が伸びた地域もあり、横ばいであった。「四国」の観光客数は愛知万博がマイナス要因とみる観光地が多く、同 3.9%減となった。「九州」は天候の良好、新規観光施設のオープン、新幹線開通 (2004 年 3 月) の好影響により同 5.8%増であった。「沖縄」は一部観光地においてプロ野球キャンプ地となったことにより集客が好調であったこと、沖縄人気の継続、修学旅行の増加などにより同 2.6%増となった。

観光地タイプ別にみると、「農山漁村観光地」(同 1.8%増) が好調であった。その一方で「温泉観光地」(同 1.5%減) や「歴史観光地」(同 2.3%減) の観光客数は依然として減少傾向が続いている。なお、「観光地ではない」とする自治体における観光客数の増加率が今期は高く、前年同期比 3.5%増であった。

年間観光客数別にみると、「5 万人未満」(前年同期比 1.1%増)、「5~10 万人未満」(同 2.7%増)、「100~300 万人未満」(同 2.1%増) の観光地の観光客数について増加傾向がみられた。

*8 ここでは自治体ごとの入込み数を指す。

*9 ここでの DI は、前年同期比 “+2%以上” となった回答の割合から “-2%以下” となった回答の割合の差をとったもの。

図表 1-4 観光客数の推移

		2004 年			2005 年			
		4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期		
		前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)
全体平均		2.2	0.4	0.6	3.6	0.8	10.0	442
地域別	北海道	6.6	5.4	5.4	1.4	7.8	45.5	44
	東北	5.8	5.0	5.0	6.7	0.4	13.8	87
	関東	2.7	1.7	1.7	4.6	9.3	19.1	68
	甲信越	1.2	16.5	16.5	10.6	3.6	6.9	29
	東海	0.6	4.3	4.3	0.9	2.1	16.0	50
	北陸	2.0	6.3	6.3	4.8	1.3	8.3	24
	近畿	0.9	6.8	6.8	4.9	8.1	52.2	23
	中国	3.4	0.4	0.4	5.2	0.0	0.0	34
	四国	2.7	5.6	5.6	1.2	3.9	31.0	29
	九州	4.1	2.3	2.3	0.4	5.8	10.6	47
	沖縄	8.8	6.0	6.0	2.0	2.6	42.9	7
観光地タイプ別	温泉観光地	5.6	2.2	2.2	6.2	1.5	19.5	41
	自然観光地	0.2	2.7	2.7	2.0	0.5	14.5	152
	リゾート(ビーチ)	25.4	7.5	7.5	8.6	-	-	3
	リゾート(山岳)	17.2	10.8	10.8	-	-	-	3
	歴史観光地	2.6	2.5	2.5	5.5	2.3	28.3	60
	都市観光地	1.8	1.0	1.0	0.4	-	-	3
	農山漁村観光地	1.6	1.6	1.6	5.5	1.8	2.3	43
	観光地ではない	0.2	1.1	1.1	3.4	3.5	4.9	81
	その他	8.1	16.0	16.0	1.8	4.2	9.1	33
年間観光客数別	5 万人未満	1.9	2.0	2.0	1.3	1.1	11.5	40
	5～10 万人未満	2.1	6.4	6.4	5.0	1.0	10.9	23
	10～50 万人未満	0.5	3.9	3.9	3.9	2.7	3.8	82
	50～100 万人未満	0.3	0.9	0.9	4.2	0.0	3.6	26
	100～300 万人未満	0.8	12.7	12.7	1.7	2.1	10.3	22
	300 万人以上	0.5	5.4	5.4	5.2	1.5	10.0	11

観光施設の動向 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の観光施設利用者数の前年同期比は全体平均 1.6%増であった。売上の前年同期比は全体平均 1.6%減となり、利用者数が増加した一方で、売上は減少していることから、引き続き消費単価は減少傾向にあるといえる。施設利用者数の DI は 13.6%ポイント、売上は同 19.3%ポイントでいずれもマイナスとなったが、前期調査 (2005 年 1-3 月期：施設利用者数 DI37.1%ポイント、施設売上同 42.9%ポイント) と比較して、マイナス幅は減少した。

施設タイプ別の利用者数について、今期はGWも含めて天候に恵まれたことなどから「自然景勝地・展望施設・観光船」(前年同期比 2.7%増)、「遊園地・テーマパーク・公園」(同 4.3%増)、「お祭り・イベント」(同 16.0%増)が好調であった。一方で、「歴史・文化的名所」(同 6.1%減)、「温浴施設・クアハウス」(同 4.5%減)の利用者数については、引き続き減少傾向がみられた。

施設タイプ別の売上については、全般に減少傾向がみられた。特に「博物館・資料館・工場見学」(前年同期比 7.8%減)、「温浴施設・クアハウス」(同 8.3%減)は大幅に減少した。一方で、「遊園地・テーマパーク・公園」(同 4.7%増)、「動物園・植物園・水族館」(同 10.0%増)、「体験プログラム」(同 1.8%増)の売上は増加傾向にあり、前期調査と比べて大幅な増加がみられた。

図表 1-5 施設利用者数の推移

	2004 年			2005 年				
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期			
	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)	
全体平均	2.9	0.8	1.1	4.6	1.6	13.6	1,542	
地域別	北海道	0.6	2.9	2.7	3.3	4.5	41.1	151
	東北	1.6	7.2	1.7	3.6	0.4	23.6	297
	関東	3.5	6.6	1.8	5.6	6.1	3.4	205
	甲信越	3.1	0.3	12.2	12.7	3.0	17.5	120
	東海	2.1	0.9	3.4	1.6	1.6	18.4	158
	北陸	3.6	2.8	2.1	1.3	5.5	1.3	77
	近畿	1.0	1.3	9.4	4.2	2.0	16.2	148
	中国	5.5	6.4	1.5	7.0	5.2	0.0	123
	四国	5.4	0.2	5.3	9.2	1.0	15.7	89
	九州	3.6	1.4	2.5	2.3	4.3	0.7	148
	沖縄	12.7	5.4	2.4	2.8	0.8	3.8	26
タイプ別	自然景勝地・展望施設・観光船	2.5	0.8	4.5	2.6	2.7	10.8	120
	遊園地・テーマパーク・公園	3.0	0.1	1.9	3.5	4.3	9.7	113
	博物館・資料館・工場見学など	4.1	6.3	4.0	3.3	1.2	24.5	208
	動物園・植物園・水族館	2.9	5.7	7.2	6.7	1.2	15.1	53
	歴史・文化的名所	1.8	6.3	2.0	9.1	6.1	36.6	101
	市街地	3.2	10.2	4.7	-	-	-	3
	ロケ地	-	4.9	13.5	4.4	26.6	0.0	6
	物販施設	4.1	2.6	3.4	4.7	1.0	3.1	64
	飲食施設	5.4	1.3	4.6	6.9	5.0	12.8	39
	道の駅	1.5	2.4	3.1	5.4	0.2	3.7	54
	温浴施設・クアハウス	2.2	6.1	5.5	6.9	4.5	46.7	107
	レジャープール	11.7	21.9	8.7	1.8	0.5	16.7	6
	スポーツ施設	-	6.2	1.7	9.5	0.5	0.0	24
	スキー場	4.9	-	0.3	0.8	-	-	4
	海水浴場	25.4	40.5	8.6	15.8	17.5	70.0	10
	ゴルフ場	3.9	0.1	2.3	8.4	2.1	26.1	23
	キャンプ場	14.8	7.7	4.5	1.6	3.5	4.0	50
	体験プログラム	4.7	0.5	8.0	2.1	8.4	28.0	25
	お祭り・イベント	7.4	9.0	1.8	4.2	16.0	26.2	84
	宿泊施設	2.7	1.5	1.9	5.6	0.2	7.0	71
その他	11.6	6.0	4.9	3.6	5.5	23.3	30	

図表 1-6 施設利用売上の推移

		2004 年			2005 年			
		4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期		
		前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	前年同期比 (%)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)
全体平均		4.5	2.1	3.0	7.3	1.6	19.3	607
地域別	北海道	4.5	6.3	2.1	4.6	8.1	71.2	59
	東北	0.7	0.6	1.1	4.3	2.1	26.3	80
	関東	3.0	3.8	4.7	7.0	0.9	8.5	94
	甲信越	1.0	1.9	8.0	9.0	7.2	34.4	61
	東海	6.7	5.1	8.1	11.7	4.3	28.3	46
	北陸	2.9	21.8	6.6	2.3	6.5	26.7	15
	近畿	6.8	7.3	6.2	10.9	4.8	3.2	62
	中国	8.5	5.5	5.7	9.7	0.2	15.4	65
	四国	17.5	6.4	5.3	6.7	0.9	2.6	39
	九州	6.1	3.6	11.2	8.9	1.9	5.7	70
	沖縄	2.9	4.8	1.6	7.1	5.1	6.3	16
タイプ別	自然景勝地・展望施設・観光船	6.2	1.1	5.1	11.2	2.8	3.8	26
	遊園地・テーマパーク・公園	13.1	0.3	4.5	10.2	4.7	0.0	37
	博物館・資料館・工場見学など	4.7	5.5	8.3	2.2	7.8	39.2	79
	動物園・植物園・水族館	1.6	9.0	1.1	14.3	10.0	46.2	13
	歴史・文化的名所	3.7	3.8	2.6	14.7	7.4	36.7	30
	市街地	20.0	-	28.3	-	-	-	0
	ロケ地	-	1.5	16.3	-	-	-	4
	物販施設	4.5	3.0	3.3	4.4	1.3	8.9	56
	飲食施設	0.6	2.4	7.9	6.3	3.3	14.3	42
	道の駅	0.6	2.3	1.6	3.9	2.4	21.4	28
	温浴施設・クアハウス	0.7	7.4	5.9	12.1	8.3	63.3	49
	レジャープール	9.9	45.7	8.3	-	-	-	1
	スポーツ施設	-	1.3	4.0	-	0.7	12.5	8
	スキー場	8.5	-	9.0	-	-	-	1
	海水浴場	100.0	4.7	31.9	-	-	-	3
	ゴルフ場	7.1	5.6	3.9	17.8	7.4	22.2	9
	キャンプ場	15.2	14.3	0.6	6.0	1.1	7.1	28
	体験プログラム	4.9	2.8	3.2	16.5	1.8	37.5	8
	お祭り・イベント	12.1	2.7	8.0	-	1.1	7.7	13
	宿泊施設	0.3	4.6	6.3	0.8	0.3	6.5	31
	その他	15.3	1.7	11.0	8.9	4.4	11.1	18

見通し (2005 年 7-9 月期、10-12 月期)

観光客数の見通しについて、2005 年 7-9 月期は DI 11.3%ポイント、2005 年 10-12 月期は同 2.8%ポイントとなった。売上の見通しについては、2005 年 7-9 月期は同 14.3%ポイント、2005 年 10-12 月期は同 4.7%ポイントとなった。

地域別にみると、2005 年 7-9 月期の観光客数見通しについて、「北海道」は知床の世界遺産登録 (2005 年 7 月) の影響により増加すると予測する観光地が多く見られたものの、引き続き観光客数の減少傾向が続くとみる観光地が多かったことから、DI 22.7%ポイントであった。「東北」はキャンペーンやイベント等の開催による観光客数の増加に期待をする観光地もみられるが、引き続き減少傾向を予測する観光地が多く見られたことから、同 9.3%ポイントであった。「関東」は花火大会や夏季イベントの開催による観光客数の増加を見込む観光地が多い一方で、イベントの中止や施設の廃業から観光客は減少すると予測する観光地も多く、同 7.4%ポイントとなった。「甲信越」は愛知万博の影響などにより、観光客数の減少を予測する観光地が多く、同 39.2%ポイントで大幅のマイナスとなった。「東海」は、愛知万博をプラス要因と見込む観光地と、マイナス要因と見込む観光地があるなか、DI は 13.4%ポイントとなった。「北陸」は愛知万博の影響による観光客数の減少を見込む観光地が多く、同 29.4%ポイントとなった。「近畿」は新規施設のオープンやイベント開催により観光客数の増加を見込む観光地が多いものの、愛知万博の影響などにより観光客数は減少すると見込む観光地もあったことから同 4.2%ポイントとなった。「中国」は、新たなイベント実施の PR 活動の強化や道の駅オープンなどにより観光客数の増加を見込む観光地が多く、同 5.5%ポイントとなった。「四国」はドラマ放送「二十四の瞳」や大河ドラマ「義経」の放映により集客を期待する観光地がみられるものの、愛知万博をマイナス要因と見る観光地も多く、同 8.0%ポイントとなった。「九州」は今年の台風などの災害による観光客数の減少の反動により増加を予測する観光地が多い一方で、景気回復を懸念する観光地もみられたことから同 10.8%ポイントであった。「沖縄」は夏休み期間の沖縄旅行の予約状況から増加を見込む観光地が多く、同 25.0%ポイントであった。

2005 年 10-12 月期の観光客数の見通しについて、「近畿」は新たなイベントの開催や愛知万博の影響がなくなることを見込んで DI4.5%ポイント、「中国」は新たなイベントに加え PR 活動の効果を期待して、同 16.7%ポイントであった。「四国」は今年の台風の影響による観光客数の減少の反動などにより同 8.3%ポイントであった。「沖縄」は沖縄の人气が継続するとみる観光地が多く同 6.7%ポイントとなっている。

図表 1-7 観光客数と売上の見通し

	2005年7-9月				2005年10-12月				
	観光客数		売上		観光客数		売上		
	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)	DI (%ポイント)	サンプル数 (件)	
全体平均	11.3	723	14.3	539	2.8	708	4.7	532	
地域別	北海道	22.7	66	22.9	48	28.8	66	31.3	48
	東北	9.3	118	10.7	84	9.3	118	10.7	84
	関東	7.4	121	14.9	94	3.4	119	5.3	94
	甲信越	39.2	51	43.2	44	12.2	49	18.6	43
	東海	13.4	67	26.1	46	4.5	67	15.2	46
	北陸	29.4	34	33.3	24	3.0	33	8.7	23
	近畿	4.2	71	6.4	47	4.5	67	2.2	45
	中国	5.5	55	6.8	44	16.7	54	23.3	43
	四国	8.0	50	8.3	36	8.3	48	20.0	35
	九州	10.8	74	6.9	58	1.4	72	3.4	58
	沖縄	25.0	16	21.4	14	6.7	15	7.7	13

2005 年GWの動向

2005 年GW期間^{*10}観光客数の前年同期比は全体平均 5.2%増、DI は 2.5%ポイントであった。施設利用者数は前年同期比 5.3%増、施設売上は同 2.3%増であった。

地域別に見ると、GW観光客数は全体に増加しており、減少した地域についても減少幅は小さい。「東北」は、天候に恵まれたことに加え、桜の開花時期が重なったことなどから観光客数は前年同期比 17.5%増の大幅な増加であった。「関東」は天候に恵まれたことから、同 9.7%増であった。「中国」も同じ理由から同 9.0%増となった。一方で「四国」は同 3.7%減となった。「九州」(同 5.0%増)はGW期間のイベントの効果や好天に恵まれたことなどにより増加した。

観光地タイプ別にみると、「温泉観光地」(前年同期比 9.7%増)、「歴史観光地」(同 16.2%増)は大幅に増加している。

年間観光客数別にみると、「5～10 万人未満」(前年同期比 1.2%減)以外は増加となっており、特に「100～300 万人未満」が同 16.3%の大幅な増加となっている。

施設タイプ別の利用者数は、好天候などの影響により、「自然景勝地・展望施設・観光船」(前年同期比 14.7%増)、「動物園・植物園・水族館」(同 12.5%増)は好調で、特に「お祭り・イベント」(同 27.3%増)が大幅な増加となった。

*10 各市町村や施設によりGWの統計期間は異なる。

図表 1-8 GWの観光客数と施設利用者数、施設売上

	観光客数			施設利用者数			施設売上			
	前年比 (%)	D _i (%ポイント)	サンプル数 (件)	前年比 (%)	D _i (%ポイント)	サンプル数 (件)	前年比 (%)	D _i (%ポイント)	サンプル数 (件)	
全体平均	5.2	2.5	222	5.3	1.6	744	2.3	2.1	439	
地域別	北海道	1.4	9.1	23	0.2	22.6	62	4.4	31.4	35
	東北	17.5	1.1	33	7.8	2.9	103	2.2	12.0	50
	関東	9.7	13.2	34	10.8	25.7	105	7.2	21.2	66
	甲信越	0.9	0.0	14	4.1	1.2	81	7.1	22.4	49
	東海	1.2	4.0	25	1.3	21.4	70	1.9	11.4	35
	北陸	1.4	0.0	8	0.4	4.2	24	1.6	16.7	12
	近畿	1.9	13.0	12	2.8	6.5	77	0.9	15.2	46
	中国	9.0	23.5	25	9.9	21.7	83	7.6	25.0	52
	四国	3.7	10.3	21	2.2	10.5	38	1.2	6.7	30
	九州	5.0	10.6	23	7.7	0.0	82	16.5	4.0	50
	沖縄	-	-	4	2.3	0.0	19	0.4	7.1	14
観光地タイプ別	温泉観光地	9.7	14.6	15	8.2	1.4	69	4.8	11.9	42
	自然観光地	4.5	4.6	75	5.5	3.2	247	0.0	3.7	135
	リゾート(ビーチ)	-	-	1	10.1	12.5	8	16.9	50.0	6
	リゾート(山岳)	-	-	2	-	-	4	-	-	5
	歴史観光地	16.2	1.7	29	3.1	18.3	126	2.8	0.0	66
	都市観光地	-	-	2	8.4	25.7	35	15.6	41.7	24
	農山漁村観光地	2.5	4.7	27	7.4	12.0	75	2.9	4.0	50
	観光地ではない	2.7	4.9	45	7.6	5.4	92	12.2	11.9	67
	その他	0.5	9.1	14	1.5	18.5	54	2.3	17.4	23
年間観光客数別	5万人未満	3.8	4.9	40	6.6	2.9	68	3.4	7.4	54
	5～10万人未満	1.2	6.5	23	3.3	5.7	53	6.7	6.1	33
	10～50万人未満	6.1	1.9	82	7.1	4.5	242	1.6	9.7	165
	50～100万人未満	9.8	1.8	26	7.4	8.6	105	7.1	13.3	60
	100～300万人未満	16.3	7.4	22	3.7	9.5	137	2.0	7.9	63
	300万人以上	3.7	20.0	11	3.5	12.7	79	0.1	8.3	24
タイプ別	自然景勝地・展望施設・観光船				14.7	18.0	61	12.0	36.4	22
	遊園地・テーマパーク・公園				8.0	12.9	62	7.6	11.5	26
	博物館・資料館・工場見学など				4.1	32.1	112	6.9	31.3	64
	動物園・植物園・水族館				12.5	12.0	25	8.4	25.0	8
	歴史・文化的名所				0.3	3.6	56	7.9	39.1	23
	市街地				-	-	1	-	-	0
	ロケ地				-	-	0	-	-	0
	物販施設				0.6	2.4	41	2.8	7.0	43
	飲食施設				3.3	30.4	23	4.6	13.3	30
	道の駅				7.6	26.7	30	7.5	4.5	22
	温浴施設・クアハウス				2.8	24.2	62	5.9	35.1	37
	レジャープール				-	-	2	-	-	0
	スポーツ施設				1.9	16.7	6	3.5	33.3	6
	スキー場				-	-	2	-	-	0
	海水浴場				-	-	3	-	-	2
	ゴルフ場				5.0	42.9	7	-	-	3
	キャンプ場				8.1	20.0	25	14.7	29.4	17
	体験プログラム				13.5	23.1	13	13.0	14.3	7
	お祭り・イベント				27.3	41.7	24	4.5	16.7	6
	宿泊施設				13.6	0.0	33	11.2	40.9	22
その他				14.6	20.0	20	20.7	38.5	13	

(3) 宿泊施設

旅館 (2005 年 4-6 月期)

「JTBF 宿泊客動向調査^{調査3}」によると、2005 年 4-6 月期の平均客室稼働率^{*11}は 54.1% (前年同期比 2.3%減)、定員稼働率^{*12}は 36.4% (同 3.3%減)と、いずれも前年同期の実績を下回る結果となった。前回 2005 年 4 月の調査に引き続いて下落幅は縮小しており、稼働率に下げ止まりの傾向が見られる。

地域別に見ると、東海地域、近畿地域を除く全ての地域で前年同期を下回る結果となっている。

まず、東海地域では 58.2% (同 1.3%増)と好調な結果となった。その要因としては、愛知県内の施設を中心に 3 月末に開幕した愛知万博の好影響をあげる回答が目立っている。前回調査では、愛知万博を控えた旅行出控えなどにより低調な稼働率であったが、今期は開幕を迎えていよいよその好影響が現れ始めたと言えよう。しかしその一方で、同じ東海地域内でも伊豆など開催地から離れた地域では、愛知万博に団体客が流れたことにより稼働率が減少したとの厳しい見方も目立つ。

東海地域とならんで、55.6% (同 1.6%増)と好調であった近畿地域では、愛知万博の影響や JR 福知山線の脱線事故など若干のマイナス要因はあったものの、4-6 月期が修学旅行シーズンということもあり、学生を中心とした団体客の入り込みが好調であったことをあげる意見が目立つ。

対して、愛知万博のマイナス面の影響を最も大きく受けたのが東海地域に隣接する北陸地域であり、50.3% (同 14.5%減)と大幅に稼働率を落としている。各施設からの具体的な意見でも、愛知万博の影響を指摘する意見が多数となっていることから、団体客が大きく動いたことが予想される。その他、全国的にいずれの地域でも愛知万博の影響をあげる声が見受けられる。

その他、特徴的なところでは、北海道地域では道内景気の低迷が続いていることを挙げる回答や、甲信越地域では昨年発生した新潟県中越地震の影響がまだまだ続いているといった意見も見られる。

宿泊単価については、平均一泊二食料金が 13,485 円で前年同期比 0.3%減、総消費単価が 17,061 円で同 0.6%減と、いずれもわずかながら前年の実績を下回っている。

*11 客室稼働率とは、総客室数に対しての宿泊に利用された客室数の割合を指す。

*12 定員稼働率とは、定員に対しての宿泊人数の割合を指す。

図表 1-9 旅館の客室稼働率の推移

上段：稼働率 (%)
下段：前年同期比増加率 (%)

	サンプル数	2004 年			2005 年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	
全体平均	391	52.5 (0.0)	60.7 (4.2)	57.3 (4.7)	52.5 (2.6)	54.1 (2.3)	
地域別	北海道	29	53.0 (2.0)	73.5 (1.8)	51.7 (2.4)	51.9 (2.5)	51.5 (4.3)
	東北	61	54.0 (3.2)	58.3 (6.0)	60.7 (0.7)	49.0 (3.2)	55.0 (1.6)
	関東	49	55.0 (2.3)	60.4 (2.8)	59.7 (5.1)	55.5 (2.5)	54.7 (1.3)
	甲信越	38	44.2 (1.0)	57.4 (5.6)	50.3 (13.7)	50.1 (3.4)	50.5 (6.6)
	北陸	20	42.2 (6.3)	55.2 (12.0)	55.1 (5.4)	47.4 (2.5)	50.3 (14.5)
	東海	64	53.1 (3.7)	62.1 (3.4)	56.4 (7.7)	57.7 (5.1)	58.2 (1.3)
	近畿	41	56.0 (5.6)	61.2 (0.7)	62.4 (0.9)	52.8 (3.2)	55.6 (1.6)
	中国	22	48.8 (2.3)	55.5 (0.9)	59.0 (6.2)	50.4 (0.1)	47.5 (2.2)
	四国	19	52.2 (1.0)	60.5 (13.5)	54.6 (6.1)	48.7 (5.2)	56.2 (0.3)
	九州	45	57.3 (1.6)	60.9 (0.1)	59.6 (3.6)	53.3 (2.2)	53.8 (3.9)
* 施設規模別	大規模	44	59.6 (2.8)	68.0 (2.2)	59.6 (3.2)	60.0 (0.7)	58.8 (3.6)
	中大規模	102	58.8 (0.5)	65.4 (2.0)	61.2 (3.6)	57.3 (3.3)	58.2 (2.5)
	中規模	100	53.0 (0.4)	62.2 (4.1)	58.6 (5.5)	51.3 (4.1)	54.4 (0.3)
	小規模	145	47.2 (0.7)	54.3 (6.1)	52.8 (5.4)	47.4 (0.7)	49.5 (3.1)

* 施設規模：大規模...客室数 150 室以上、中大規模...70～149 室、中規模...40～69 室、小規模...39 室以下

* サンプル数は 2005 年 4-6 月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の稼働率を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

図表 1-10 旅館の一泊二食単価の推移

上段：単価（円）
下段：前年同期比増加率（％）

	サンプル数	2004 年			2005 年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	
全体平均	371	12,702 (1.0)	13,176 (0.7)	13,471 (0.9)	13,439 (0.4)	13,485 (0.3)	
地域別	北海道	29	10,042 (1.1)	10,482 (2.6)	10,171 (0.2)	9,669 (0.2)	9,065 (0.0)
	東北	56	11,125 (2.1)	11,007 (0.4)	11,693 (1.3)	11,831 (0.5)	11,722 (1.0)
	関東	47	13,253 (2.6)	14,153 (0.8)	13,691 (0.5)	13,925 (1.8)	14,344 (0.5)
	甲信越	36	10,996 (1.6)	13,652 (1.2)	12,616 (2.2)	10,446 (0.9)	12,474 (1.2)
	北陸	20	12,921 (0.4)	13,424 (3.7)	14,068 (2.3)	14,854 (1.0)	14,539 (0.3)
	東海	62	14,323 (0.7)	15,203 (1.2)	15,518 (0.1)	16,222 (0.6)	16,112 (0.5)
	近畿	37	15,091 (0.7)	14,052 (2.3)	16,246 (0.8)	17,819 (2.4)	14,393 (0.1)
	中国	21	12,400 (1.4)	12,603 (1.8)	12,647 (0.1)	12,920 (0.3)	13,971 (1.5)
	四国	18	12,459 (1.3)	13,766 (3.3)	13,781 (0.0)	13,526 (0.2)	13,519 (1.1)
	九州	44	13,647 (1.7)	13,004 (2.3)	13,227 (3.0)	13,297 (1.3)	13,263 (2.4)
*施設規模別	大規模	39	10,969 (0.8)	11,296 (1.1)	11,554 (0.6)	11,795 (0.1)	11,111 (0.3)
	中大規模	96	11,424 (1.0)	12,563 (0.3)	12,230 (1.3)	11,894 (0.5)	12,374 (0.3)
	中規模	99	12,245 (1.2)	12,173 (0.8)	13,422 (1.2)	12,575 (0.0)	12,637 (1.4)
	小規模	137	13,944 (0.9)	14,742 (0.7)	14,933 (0.4)	15,783 (0.6)	15,673 (0.7)

*施設規模：大規模...客室数 150 室以上、中大規模...70～149 室、中規模...40～69 室、小規模...39 室以下

*サンプル数は 2005 年 4-6 月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の稼働率を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

ホテル (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の平均客室稼働率は 68.9% (前年同期比 1.5%増) 定員稼働率は 59.8% (同 2.2%増) と、前回調査に引き続きいずれも前年の実績を上回る結果となっている。

地域別に見ると、やはり目を引くのが東海地域の好調さであり、愛知万博に伴う宿泊需要の増加により、72.4% (同 12.6%増) と大幅に実績を伸ばしている。

近畿地域も 75.4% (同 1.6%増) と好調であったが、この要因としては愛知万博への外国人観光客の宿泊需要が増加したことや、ネット販売が好調であったことを挙げる意見が目立った。

また、東北地域では、GW期間の集客が好調だったことも影響し、62.8% (同 2.6%増) と前年の実績を上回る結果となっている。

対して、北陸地域では、59.6% (同 4.5%減) と前年実績を大きく下回る結果となっているが、この要因としては、地域の景気低迷や長期的な団体宿泊客の減少を挙げる見方が目立っている。

平均ルームチャージ料金は 8,883 円 (同 0.1%減) となっており、新規参入ホテルとの価格競争やインターネット予約の普及により価格の下落傾向が続いていたが、今期はほぼ前年度と同水準まで持ち直した結果となり、一旦下げ止まった感がある。

図表 1-11 ホテルの客室稼働率の推移

上段：稼働率 (%)
下段：前年同期比増加率 (%)

	サンプル数	2004 年			2005 年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	
全体平均	495	68.9 (3.1)	74.3 (0.5)	70.8 (1.5)	68.4 (0.7)	68.9 (1.5)	
地域別	北海道	31	67.2 (2.8)	83.7 (1.5)	69.6 (0.3)	68.4 (1.5)	67.8 (0.7)
	東北	36	62.2 (2.2)	67.0 (2.1)	63.6 (3.2)	58.3 (0.1)	62.8 (2.6)
	関東	127	75.4 (3.2)	78.1 (0.5)	78.7 (1.3)	78.2 (1.7)	74.9 (1.4)
	甲信越	20	58.6 (6.8)	71.0 (3.8)	59.9 (1.7)	52.7 (0.6)	52.8 (1.7)
	北陸	14	60.4 (0.6)	69.4 (0.3)	63.8 (5.6)	53.5 (7.6)	59.6 (4.5)
	東海	36	66.2 (4.5)	73.8 (2.5)	65.8 (2.8)	66.7 (2.5)	72.4 (12.6)
	近畿	95	72.6 (6.7)	78.3 (0.3)	77.2 (0.7)	71.0 (3.8)	75.4 (1.6)
	中国	38	67.7 (6.7)	71.3 (2.0)	67.1 (2.0)	62.4 (0.1)	63.1 (0.2)
	四国	16	63.4 (3.8)	61.4 (4.2)	60.3 (3.0)	58.7 (1.7)	59.8 (1.1)
	九州	60	63.8 (0.0)	63.6 (4.5)	65.8 (0.6)	64.2 (3.0)	61.2 (1.0)
	沖縄	22	63.7 (6.1)	80.5 (6.0)	60.1 (13.7)	77.6 (5.3)	68.8 (1.7)
* 施設規模別	大規模	161	73.2 (5.6)	78.2 (0.4)	76.2 (0.8)	73.6 (2.7)	74.8 (2.7)
	中規模	175	70.8 (2.3)	75.1 (0.5)	72.1 (1.6)	70.3 (0.1)	69.4 (1.0)
	小規模	159	62.4 (1.3)	69.1 (1.9)	63.8 (2.0)	60.6 (0.3)	62.4 (0.8)

* 施設規模：大規模...客室数 201 室以上、中規模...101～200 室、小規模...100 室以下

* サンプル数は 2005 年 4-6 月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の稼働率を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

図表 1-12 ホテルのルームチャージの推移

上段：単価（円）
下段：前年同期比増加率（％）

		サンプル数	2004 年			2005 年	
			4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期
全体平均		407	8,582 (1.3)	8,700 (2.0)	8,667 (1.8)	8,314 (1.3)	8,883 (0.1)
地域別	北海道	23	6,747 (0.9)	7,827 (4.6)	6,138 (2.1)	5,677 (2.7)	6,954 (2.3)
	東北	33	6,824 (3.2)	7,246 (2.6)	7,080 (2.6)	6,876 (2.1)	6,690 (1.5)
	関東	111	10,906 (1.5)	11,171 (1.7)	11,115 (1.7)	10,894 (1.6)	11,103 (0.8)
	甲信越	14	9,607 (1.3)	9,804 (1.9)	7,385 (4.3)	8,418 (0.8)	11,533 (3.1)
	北陸	12	6,086 (2.3)	5,968 (4.1)	6,137 (3.1)	6,245 (1.4)	6,408 (0.6)
	東海	29	7,878 (1.5)	8,029 (1.5)	7,591 (1.6)	7,587 (0.4)	8,715 (6.4)
	近畿	85	8,922 (0.7)	8,919 (2.2)	9,378 (1.4)	8,302 (1.3)	8,559 (0.2)
	中国	32	6,985 (0.1)	7,277 (1.1)	7,379 (0.7)	6,680 (0.4)	7,261 (0.1)
	四国	14	6,769 (0.3)	6,874 (0.7)	7,570 (1.9)	6,997 (0.5)	6,876 (1.3)
	九州	47	6,623 (1.9)	7,122 (1.1)	7,616 (2.4)	7,514 (1.2)	7,906 (0.7)
	沖縄	7	11,377 (5.2)	8,436 (2.5)	8,623 (6.3)	8,273 (9.1)	11,391 (10.3)
* 施設規模別	大規模	135	10,292 (1.4)	10,472 (1.8)	10,554 (2.1)	9,984 (1.4)	10,730 (0.1)
	中規模	154	7,753 (0.7)	7,823 (2.2)	7,708 (1.9)	7,525 (0.7)	7,766 (0.1)
	小規模	118	7,888 (1.8)	8,009 (1.9)	7,888 (1.2)	7,423 (1.8)	8,193 (0.5)

* 施設規模：大規模...客室数 201 室以上、中規模...101～200 室、小規模...100 室以下

* 斜字体はサンプル数が 10 軒に満たないもの。

* サンプル数は 2005 年 4-6 月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の稼働率を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

ペンション・民宿、公的宿泊施設 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の平均客室稼働率は、ペンション・民宿が 29.2%(前年同期比 2.0%減)、公的宿泊施設が 54.3%(同 3.8%減)と前年実績を下回る結果となった。平均定員稼働率は、ペンション・民宿が 25.7%(同 7.7%増)と前年実績を上回ったのに対して、公的宿泊施設は 37.2%(同 3.3%減)となっている。

一泊二食料金は、ペンション・民宿が 8,427 円(同 1.6%減)と前年を下回る結果となったのに対して、公的宿泊施設は 8,490 円(同 0.2%増)と、わずかながら前年を上回る結果となっている。

図表 1-13 ペンション・民宿、公的宿泊施設の推移

()内数値は前年同期比増加率
(%)

	サンプル数	2004年			2005年	
		4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期
稼働率	ペンション・ 民宿 46	30.5	43.2	26.3	34.3	29.2
		(0.4)	(3.9)	(10.1)	(8.3)	(2.0)
稼働率	公的宿泊 施設 56	53.2	65.7	52.1	50.4	54.3
		(0.1)	(3.8)	(7.8)	(7.5)	(3.8)
1 泊 2 食 単 価 (円)	ペンション・ 民宿 30	7,736	8,267	9,128	8,364	8,427
		(0.1)	(1.8)	(1.7)	(1.9)	(1.6)
1 泊 2 食 単 価 (円)	公的宿泊 施設 47	8,118	8,872	8,846	8,495	8,490
		(1.3)	(0.7)	(1.2)	(0.2)	(0.2)

* サンプル数は 2005 年 4-6 月期調査のもの。

本調査では当期および前年同期の稼働率を尋ねており、「前年同期比増加率」は当期調査で得られたサンプルの回答をもとに算出している。

今後の見通し (2005 年 7-9 月期、2005 年 10-12 月期)

旅館の 2005 年 7-9 月期の見通しは、宿泊者数の DI 値が 27.5%ポイントで前回調査結果とほぼ同水準、宿泊売上が 33.6%ポイントで前回の調査と比較して 9.3%ポイント減少という結果となっている。また、2005 年 10-12 月期については、宿泊者数が 0.3%ポイント、宿泊売上が 3.0%ポイントと、7-9 月期から大幅に改善している。

10-12 月期の見通しを地域別にみると、東北、関東、甲信越、近畿、中国、四国といった地域で DI 値が宿泊者数、宿泊売上ともに横ばいかプラスとなっている。特に東北、関東、近畿といった地域では DI 値が 2 桁台と大幅に改善している。この要因として、東北地域では、愛知万博の終了や紅葉シーズンの集客、関東地域や近畿地域では行楽シーズンを控えた好調な予約状況を上げる声が見られる。

対して、北海道、北陸、東海といった地域では DI 値が大幅なマイナスとなっている。この要因として、北陸地域では団体客の減少、東海地域では 9 月末に閉幕する愛知万博の反動減を挙げる意見が目立つ。

図表 1-14 旅館の今後の見通し

		2005年7-9月		2005年10-12月	
		宿泊者数	宿泊売上	宿泊者数	宿泊売上
全体平均		27.5	33.6	0.3	3.0
地域別	北海道	37.9	51.7	27.6	24.1
	東北	18.3	23.7	15.5	12.3
	関東	8.5	19.1	23.9	13.0
	甲信越	31.6	39.5	2.6	0.0
	北陸	63.2	58.8	16.7	18.8
	東海	20.3	25.0	23.8	27.4
	近畿	32.4	43.2	24.3	21.6
	中国	50.0	50.0	0.0	9.1
	四国	55.6	55.6	5.9	11.8
九州	20.0	25.0	4.4	11.4	
*規模別	大規模	33.3	47.6	9.8	19.5
	中大規模	20.8	30.0	1.0	3.0
	中規模	36.1	44.3	3.1	9.4
	小規模	24.6	24.5	6.5	6.7

* 施設規模：大規模...客室数 150 室以上、中大規模...70～149 室、中規模...40～69 室、小規模...39 室以下
 ここでの DI 値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。

ホテルの 2005 年 7-9 月期の見通しは、宿泊者数の DI 値が 4.8%ポイント、宿泊売上が 11.0%ポイントとなっており、前回調査と比較してそれぞれ 7.5%ポイント、3.3%ポイント良化している。また、2005 年 10-12 月期については、宿泊者数が 0.2%ポイント、宿泊売上が 7.4%ポイントと、7-9 月期と比較して大きく改善している。

10-12 月期の見通しを地域別にみると、関東、近畿、中国といった地域で DI 値がプラスとなっており、特に中国地域では宿泊者数、宿泊売上也ともに大幅に改善している。この要因として、10、11 月に開催されるおかやま国体に伴う宿泊需要の増加に期待する意見が目立つ。

一方、北海道、甲信越、北陸、東海といった地域では DI 値が大幅なマイナスとなっているが、要因としては、北海道地域では特別に集客要因となる要素がないことや、東海地域では愛知万博終了後の反動減を挙げる意見が目立つ。

図表 1-15 ホテルの今後の見通し

DI (%ポイント)

	2005年7-9月		2005年10-12月		
	宿泊者数	宿泊売上	宿泊者数	宿泊売上	
全体平均	4.8	11.0	0.2	7.4	
地域別	北海道	37.9	33.3	20.7	23.3
	東北	5.6	25.0	2.8	25.0
	関東	0.8	10.7	2.5	9.1
	甲信越	35.0	30.0	15.8	21.1
	北陸	35.7	28.6	14.3	14.3
	東海	31.4	14.7	8.6	17.6
	近畿	7.6	6.6	7.7	4.4
	中国	23.7	22.2	27.0	25.0
	四国	0.0	25.0	0.0	12.5
	九州	15.8	5.6	7.0	14.8
	沖縄	4.5	0.0	0.0	4.5
*規模別	大規模	7.6	11.5	2.5	2.6
	中規模	1.2	9.0	5.4	13.8
	小規模	5.8	12.7	3.9	5.4

* 施設規模：大規模...客室数 201 室以上、中規模...101～200 室、小規模...100 室以下
 ここでの DI 値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。

2. 海外旅行

海外旅行者数 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の日本人出国者数は、397 万人、前年同期比 3.7% 増と前期に引き続き増加を維持した。2005 年上半期では 2001 年に次ぐ過去 2 番目の記録となっている。しかし、1-3 月期が前年同期比 16.1% 増であったことを考慮すると、伸び率は鈍化している。

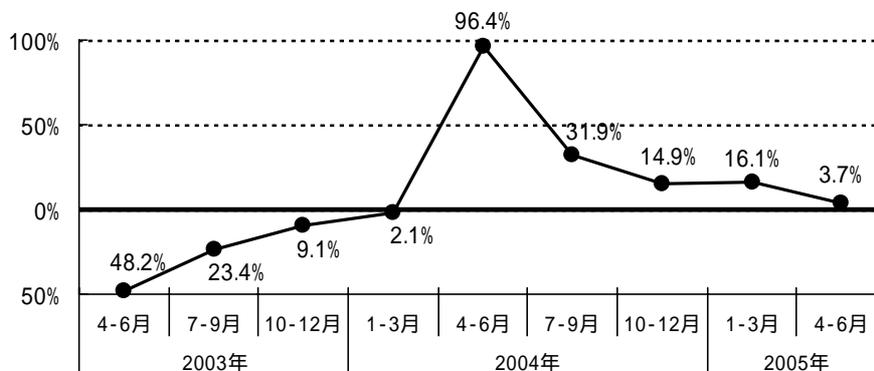
海外旅行の伸び率が低下した原因としては 3 月に緊張化した韓国との竹島領有権問題、次いで 4 月上旬から相次いだ中国での反日デモの 2 つが主因としてあげられる。また昨年 12 月に引き続き 3 月末に発生したスマトラ沖の地震、原油価格の高騰による各航空会社の燃油特別付加運賃・料金(燃油サーチャージ)の徴収なども影響を与えていると考えられる。ただし、GW が長期休暇の取りやすい日並びだったことや、中部国際空港開港効果の持続などプラスの面もあったため、大きな落ち込みとはならなかった。

月別にみると、4 月は前年同月比 10.0% 増であったが、5 月に反日デモの影響が出て 0.6% 減と 15 ヶ月ぶりの減少となった。6 月は 2.0% 増と回復の兆しを見せている。

性別に見ると、4-5 月の合計では男性が 150 万人、前年同期比 2.5% 増、女性が 110 万人、7.5% 増となり、女性の方に伸びが大きい。ただし出国者数過去最高となった 2000 年同期と比較すると男性 0.3% 増、女性 7.5% 減となっている。

2005 年 4-5 月の合計を性・年代別に見てみると、女性 40 代～60 歳以上の各層がいずれも 10% を越える伸びとなっている。ただし同年代の男性はいずれも 5% 前後の伸びにとどまっており、男女の伸び率には開きがある。逆に減少となっているのは 10 代および 20 代の男女各層で、最も減少したのが男性 20 代の 4.4% 減である。若年層の減少傾向は長期に渡っており、特に女性 20 代の減少は著しく、2000 年同期比で 32.1% 減とこの 5 年で 3 割以上も減少している。

2005 年 4-5 月の合計について地域別に見ると、最も増加しているのが東海で 8.1% 増となっており、中部国際空港開港の影響が持続しているといえよう。

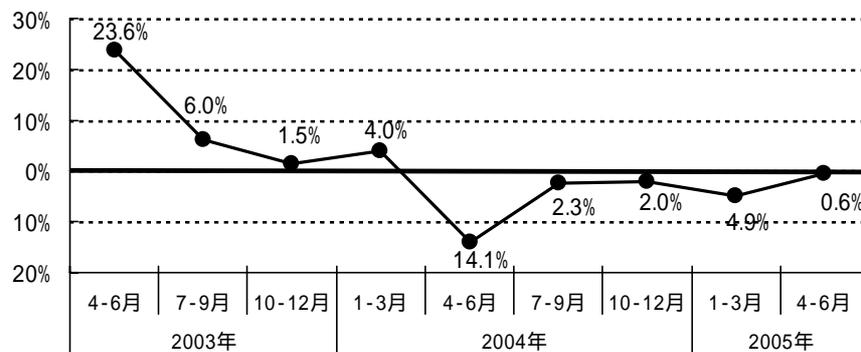


資料：法務省 (2005 年 6 月分は J N T O 発表の速報値に基づく)

図表 2-1 海外旅行者数 (前年同期比) の推移

旅行単価 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の 1 人当り旅行単価は 34 万 6 千円で、前年同期比 0.6% 減となっている。SARS の影響からの回復後、単価の安い中国等近隣への旅行比率が高まったことから単価は下落傾向にあるが、今期は反日デモ等の影響で中国、韓国への旅行が控えられたため、ほぼ前年同期並みにとどまった。



資料：日本銀行、日本航空、全日空、法務省データより（財）日本交通公社推計

図表 2-2 海外旅行単価（前年同期比）の推移

方面別の動向 (2005 年 4-6 月期)

2005 年 4-6 月期の方面別の動向は以下のようになっている。

東アジア・東南アジア

東アジア方面は、中国で反日デモ、韓国では竹島問題が発生したことから、この 2 大マーケットはいずれも減少となった。両国とも観光交流の発展や安全性を強調しているものの、ツアーキャンセル、交流事業の中止などが相次ぎ、5 月、6 月は両国とも前年同月比 10%前後の減少となっている。対照的に好調なのが台湾で、前年同期比 37.6%増と大幅に増加しており、年間目標の 100 万人突破に向けて順調に推移している。また、マカオも前年同期比 54.1%増と好調である。香港は前年同期比 3.0%増、シンガポールは 1.5%増であった。香港は反日デモの影響を受けながらも、さまざまなプロモーション活動が奏効し、増加傾向を維持している。フィリピンは前年同期比 10.5%増と好調であるが、韓国人の旅行者が急増しておりホテルの予約がとりづらい状況にある。

太平洋・オセアニア

ハワイは米国本土からの訪問者が増加傾向にあるとともに、ワイキキのホテルにリノベーションを行っているところがあるため、ホテルの予約が取りにくくなっているが、それでも前年同期比 3.5%増と前期に引き続き増加となった。グアムは 6.5%増と順調に伸びているが、サイパンは前年が好調だったこともあり、前年同期比 3.8%の減少となった。

オーストラリアは前年同期比 11.7%減と大きく減少した。例年この時期に多くなる団体旅行が今期は伸び悩んだことが原因である。ニュージーランドは 6 月単月では前月比 19.9%増で 6 月の最高数値となったが、4-6 月期としては前年同期比 0.4%減となっている。タヒチは前年同期比 14.0%減と大きく落ち込んだ。スマトラ沖における地震、津波が心理的影響を与えたと考えられる。フィジーは数値発表はないものの、目下オーストラリア、ニュージーランドからの来訪者が好調なため、ホテルの予約がとりづらい状況にある。

欧米他

ヨーロッパへの旅行者は従来の観光地のみならず、これまであまり知られていなかった観光地へと足を伸ばす傾向が顕著になっている。特に中・東欧はブームになっており、ハンガリーでは今期は伸びが鈍化したとはいえ前年同期比 21.8%増となっている。また同様に北欧諸国のフィンランド、ノルウェー、スウェーデンではそれぞれ前年同期比 15.7%増、7.4%増、6.5%増といずれも増加している。ただし、デンマークは前年同期比 7.1%減と減少した。一方中・東欧諸国との競合が激化しているドイツは 4-5 月で前年同期比 3.6%減となった。

トルコはテロ事件の影響から回復し、前年同期比 118.4%増と大幅な増加となっている。特に 5、6 月は過去最高の数値となった。ジャマイカは前年同期比 0.4%増とほぼ前年並みであった。

見通し (2005 年 7-9 月期、10-12 月期)

「JTBF 海外旅行デスティネーション調査^{調査4}」において各国政府観光局を対象に 2005 年 7-9 月期及び 10-12 月期の日本人渡航者数の見通しを尋ねた。その結果、7-9 月期の D I 値が 13.6%ポイント、10-12 月期が 59.1%ポイントとなっている。増加の見通しが減少の見通しを上回っているものの、これまでの調査で最も低い値となっており、SARS の影響から回復し、各政府観光局とも慎重な見通しを持つようになったものと考えられる。

増加、減少の見通しの理由については各国、地域により異なっている。増加するという回答の具体的な例としては、マカオはユネスコ世界遺産に登録されたこと、トルコは F1 などのイベントが行われること、パプアニューギニアでは戦後 60 周年を迎え慰霊団の渡航があることなどをあげている。また減少する理由としては、ハワイ、フィジーなどでは他国からの渡航者増加の結果ホテルが予約できないこと、北欧諸国は 8 月のヘルシンキ世界陸上の影響などがあげられている。

なお、7 月 7 日にロンドンで同時多発テロが発生したが、日本人に被害者が出なかったこともあり、その後の海外旅行の予約状況に大きな変化は出ていない。各政府観光局への調査でもこの点を懸念している回答は無かった。

図表 2-3 方面別日本人海外旅行者数の推移

上段：千人
下段：前年同期比(%)

				2004 年			2005 年	
	2002 暦年	2003 暦年	2004 暦年	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期
韓国	2,321 2.4	1,803 22.3	2,443 35.5	549 88.9	668 43.1	708 32.2	649 25.4	527 4.0
中国	2,987 25.3	2,251 24.6	3,334 48.1	778 242.0	933 68.4	966 35.3	901 37.0	740 5.0
香港	1,395 4.4	867 37.8	1,126 29.9	257 440.1	318 36.8	332 26.6	317 44.0	265 3.0
台湾	991 1.4	660 33.4	890 35.0	199 300.3	238 65.8	270 41.1	275 50.2	274 37.6
シンガポール	723 4.4	434 40.0	599 37.9	126 276.2	185 55.0	151 23.0	141 3.3	128 1.5
タイ	1,221 3.7	1,021 16.4	1,205 18.0	250 76.1	324 26.5	319 5.7	286 8.3	- -
ハワイ	1,485 1.5	1,331 10.4	1,480 11.2	341 52.7	401 10.3	397 0.4	378 11.0	353 3.5
グアム	782 13.2	660 15.7	900 36.5	199 100.7	246 25.0	217 1.4	255 7.4	212 6.5
サイパン	326 2.2	328 0.4	382 16.7	89 66.0	97 21.7	93 2.2	99 4.2	86 3.8
ドイツ	1,297 3.9	1,176 9.3	1,278 8.6	337 34.4	398 6.4	311 0.8	233 0.5	- -
オーストラリア	715 5.7	628 12.2	710 13.1	153 49.5	182 16.1	190 1.3	194 4.5	136 11.7
アメリカ	3,627 11.2	3,170 12.6	3,748 18.2	871 64.8	1,064 13.6	909 2.2	934 3.4	- -

資料：各国政府観光局

図表 2-4 渡航者数と観光消費の見通し

DI (%ポイント)

	2005 年 7-9 月期	2005 年 10-12 月期
全外国人渡航者数	36.8	42.1
日本人渡航者数	13.6	59.1
観光消費	27.8	33.3

ここでの DI 値は、「かなり増」「やや増」とする回答の割合から「やや減」「かなり減」とする回答の割合の差をとったもの。

3 . 外国人旅行

旅行者数 (2005 年 4-6 月期)

国際観光振興機構 (JNTO) によると、05 年 4-6 月期の訪日外客数は前年同期比 7.1% 増の 166 万人となり、04 年 4-6 月期の SARS 禍の反動増を除けば、03 年 7-9 月期からおおむね 8~10% の増加率を維持している。

今期は、3 月に開幕した愛知万博と、韓国と台湾に対する短期滞在ビザの免除により、訪日外客数の大幅増が期待されたが、韓国と中国における反日感情の高まりによって、増加率は 05 年 1-3 月期よりも低下した。ただし韓国観光公社 (KNTO) によると、韓国から日本への渡航者数は 05 年 6 月、7 月ともに二桁の増加率となっており、韓国における反日感情の影響は薄らいできている。

目的別の動向 (2005 年 4-6 月期)

国際観光振興機構 (JNTO) によると、05 年 4-5 月期の「観光客」は 6.0% 増の 71 万人であった。また、「観光客」が訪日外客数に占める構成比は 63.7% (04 年 4-5 月期は 64.0%) となり、今期は愛知万博が開催されていたものの「観光客」の構成比は微減となった。05 年 6 月に万博協会の実施した調査によると、愛知万博の総入場者数に占める外国人 (旅行者以外も含む) の比率は 5% 未満であった。韓国と中国における反日感情の高まりなどのため、愛知万博の誘客効果が十分には発揮されていないといえる。

また、05 年 4-5 月期の「商用客」は 8.9% 増の 26 万人、「その他客」は 10.5% 増の 14 万人であった。

地域別の動向 (2005 年 4-6 月期)

国際観光振興機構 (JNTO) によると、05 年 4-5 月期の韓国からの訪日客数は 0.1% 増の 24 万人にとどまった。「観光客」は 0.1% 減とわずかながら減少し、愛知万博の開催と短期滞在ビザ免除の効果が、反日感情の高まりによって打ち消されたことがわかる。

また中国でも反日感情が高まり、05 年 4-5 月期の訪日客数は 2.6% 増の 11 万人にとどまった。特に「観光客」は 13.9% 減と大幅に減少している。

一方、韓国と同様に短期滞在ビザが免除された台湾では、05 年 4-5 月期の訪日客数は 23.7% 増の 24 万人と大幅に増加している。また、アメリカも 8.7% 増の 15 万人と増加した。香港では 36.9% 減の 3 万人と落ち込んだが、これは香港のイースター休暇が 05 年は 3 月だったことや、04 年 4 月の短期滞在ビザ免除にともなう訪日旅行増の反動が要因としてあげられる。

図表 3-1 訪日外国人旅行者数の推移

上段：千人
下段：前年同期比 (%)

	2003 暦年	2004 暦年	2004 年			2005 年		
			4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	
訪日外客数	5,212 0.5	6,138 17.8	1,552 56.0	1,660 8.9	1,481 9.5	1,593 10.9	1,662 7.1	
目的別	観光客	3,055 1.3	3,840 25.7	997 80.5	1,072 12.7	902 9.5	975 12.4	710 6.0
	商用客	1,281 0.3	1,383 7.9	356 32.2	321 2.3	383 1.7	351 8.4	258 8.9
	その他客	733 1.6	783 6.8	171 19.3	224 7.2	165 2.1	237 5.8	139 10.5
	一時上陸客	143 4.0	132 7.1	29 4.1	42 14.6	31 6.3	31 4.0	9 43.0
地域別	韓国	1,459 14.7	1,588 8.8	420 13.8	352 22.0	444 2.3	372 7.2	236 0.1
	台湾	785 10.5	1,081 37.6	241 21.1	292 219.0	313 18.0	234 2.2	235 23.7
	アメリカ	656 10.4	760 15.8	169 7.3	216 42.0	187 9.2	189 7.4	150 8.7
	中国	449 0.8	616 37.3	153 15.5	146 118.0	175 42.4	142 12.4	107 2.6
	香港	260 10.5	300 15.4	59 14.1	84 87.1	88 1.9	71 14.8	34 36.9

目的別、地域別の数値は、05 年 4-5 月期のデータ。

資料：国際観光振興機構 (JNTO) のデータより JTBF 作成

韓国と台湾の動向 (2005 年 4-6 月期)

韓国観光公社 (KNTO) によると、05 年 4-6 月期の総出国者数は前年同期比 19.4% 増の 243 万人となった。韓国からの総出国者数は、04 年 4-6 月期以降二桁の増加率を維持しており、国外旅行が好調であることがわかる。特に中国への渡航者の伸びが著しく、05 年 4-6 月期は 42.0% 増の 76 万人となり、観光目的に限れば伸び率は 67.0% であった。一方、05 年 4-6 月期の日本への渡航者数は 6.6% 増であった。その結果、日本への渡航者数は総出国者数よりも増加幅が小さく、韓国からの出国者数に占める日本への渡航者の構成比は減少した (04 年 4-6 月期は 17.3%。05 年 4-6 月期は 15.5%)。ただし、日本への渡航者数は 05 年 6 月期が 18.3% 増 (総出国者数は 21.3% 増)、7 月が 10.4% 増 (総出国者数は 13.8% 増) となり、総出国者数の増加率には及ばないものの、反日感情による悪影響は薄らいできたといえる。

台湾観光協会によると、05 年 4-6 月期の総出域者数は前年同期比 8.9% 増の 213 万人となった。台湾からの総出域者数はここ一年間は概ね 8% 前後の伸び率となっている。また 05 年 4-6 月期の日本への渡航者数は 15.8% 増となった。その結果、日本への渡航者数は総出域者数よりも増加幅が大きく、台湾からの出域者数に占める日本への渡航者の構成比は増加した (04 年 4-6 月期は 13.5%。05 年 4-6 月期は 15.7%)。また、05 年 7 月の日本への渡航者数の増加率は 12.5% 増 (総出域者数は 7.0% 増) となっており、訪日旅行は好調を維持している。

図表 3-2 韓国と台湾の国外旅行の推移

上段：千人
下段：前年同期比 (%)

発地	着地	2003 暦年	2004 暦年	2004 年			2005 年	
				4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期
韓国	総出国者数	7,086 0.5	8,825 24.5	2,035 71.9	2,510 18.8	2,229 17.0	2,350 14.6	2,429 19.4
	日本	1,427 12.7	1,569 9.9	352 22.5	431 1.7	368 6.5	437 4.3	375 6.6
	中国	1,569 8.9	2,335 48.8	533 199.5	719 47.2	608 33.8	675 42.4	758 42.0
	アメリカ	679 1.9	628 7.6	157 1.7	187 13.5	130 10.7	154 0.5	164 4.8
台湾	総出域者数	5,923 19.1	7,780 31.4	1,957 228.5	2,242 12.2	1,830 7.9	1,880 7.3	2,130 8.9
	日本	731 8.3	1,052 43.8	279 218.6	302 23.8	231 7.0	261 8.6	323 15.8
	香港	1,869 22.7	2,559 37.0	624 443.5	732 15.5	635 11.5	640 12.5	727 16.4
	マカオ	838 34.0	1,038 23.9	251 229.0	286 6.1	286 22.8	266 24.1	306 21.7

資料：韓国観光公社 (KNTO) と台湾観光協会のデータより JTBF 作成

【今期のトピックス】

「愛・地球博」を巡る観光動向

3月25日に開幕した「愛・地球博(以下、愛知万博)」も閉幕まで残すところあと僅かになった。当初の1500万人という目標を大きく上回り、9月12日には累計入場者数1900万人を突破した。このビックイベントを好機とするため、開催地周辺の観光地や観光事業者の取り組みは活発である。観光客の動向に関する関係者への聞き取り調査から、愛知万博を巡る観光マーケットの動きを追った。

東海地方の宿泊地は活況 客層は関東、関西、遠方、外国人が目立つ

愛知万博の宿泊地としては、容量や客室タイプの限界がある名古屋市だけでなく、特に会場までのアクセスを整えた長良川温泉や西浦温泉などの周辺温泉地が人気で、各地で軒並み前年を上回る状況である。客層は、関東や関西を中心に、東北など遠方からの客や外国人などが目立つなどの変化がおこっている。一方、周辺の観光関係施設への入込は、地域を特徴づける戦国武将ゆかりの城や神社、鵜飼や焼き物などの伝統文化やものづくり施設へは万博客が立ち寄る例もあるが、従来より近隣からのリピーター客が多かったレジャー施設では万博に客足をとられたなどの理由から前年を下回っているところも多い。(図表1、2)

愛知万博関連ツアーは販売好調 日帰りプランや新幹線利用商品が人気

旅行会社等が企画募集する関連ツアーに参加して、愛知万博を訪れている人が多い。関東発でみると、滞在時間をたっぷりとることができるプランや、効率よく訪れることができる新幹線利用の日帰りプランなどが人気である。大手旅行会社では、早くから周辺温泉地へシャトルバス運行の要請を行い、宿泊に関しては積極的な誘導販売を行っている。また、高山・白川郷など人気観光地とのセットコースの設定や、満12歳以上18歳未満の中人料金設定など家族需要を取りこむ工夫を行った追加商品の発売などで、旅行需要の喚起をさらに図っている。(図表3)

セントレア開港、VJCの推進等により進んだ観光インフラの整備が追い風に

JR東海や名鉄電車など交通機関からは、通常より高い割引率で設定された企画切符の発売が相次いだ。また、セントレア開港、VJC(ビジットジャパンキャンペーン)の推進等により、圏内交通アクセスの大幅な改善、空港基点の新たな観光ルートの提案や商品化、観光案内所の整備、地域観光情報サイトの充実など観光インフラが一気に整備され、国内だけでなく外国人旅行者の利便性は一気に増し、大量の大移動が演出できたといえる。

東海圏が新たに「観光地」として注目されるきっかけに

今回の愛知万博は、名古屋市や愛知県など東海圏が新たに観光の目的地として全国的に注目される機会になった。また、大型旅館での泊食分離やインターネット販売、外国人客の対応、新たな地域魅力発信など、この機に迫られた形で対応が図られた受入態勢は、観光地としての今後の強みとなる。愛知万博を契機として培われた東海圏の観光地としての強みを活かして、今後は如何に持続的な集客に結び付けていくことができるかが課題である。

図表 1 愛知万博会場周辺の主な宿泊地における観光動向

主な宿泊地		宿泊客数の変化			会場への シャトルバス 所要時間/便数 /片道(往復)料金	客層の特徴や変化
		4-6月	7月	8月		
愛知県	名古屋市 内 (名古屋市 ホテル 旅館協同組合)	前年比約 1.5 倍強 売上高は変化なし			名古屋駅発 35分/53便 /1000(1500)円	・客層では外国人客が目立つ。 ・開幕後1ヶ月間、インターネット予約者を中心に無断不泊(ノーション)が大量発生。対応を強化したため現在ではかなり少なくなった。 ・名古屋市内宿泊施設はこれまでビジネス客利用が主体であったため、市内総室数に占めるシングルルームの割合は約8割。
	蒲郡市内 (蒲郡市観光協会) 西浦温泉含む	前年比約 1.2 倍			70分/2便 /1600(3000)円	・昨年も花博の影響で1.2倍と好調だったが、今年はさらに増加傾向。 ・通常7割を占める東海地方からの来訪者が今年は5割程度。関東からの来訪者が特に多く、遠方の客(東北)も見受けられる。 ・夕食無の宿泊客や夜出発の団体バスの休憩立ち寄り(時間調整)が多い。 ・万博後の予約状況は昨年と同じ程度。今後に向け特に海外からの修学旅行の誘客に力を入れている。
	西浦温泉 (西浦温泉旅館 協同組合)	前年比増加率				
		+20%	+32%	+10%		
岐阜県	長良川温泉 (長良川温泉 旅館協同組合)	前年比増加率			60分/1便 (新岐阜駅発4便) /1700(2800)円	・旅行会社を通じた宿泊客が多く、特に万博と鶴飼をセットにした旅行商品への参加者が多い。 ・外国人も増加傾向。 ・9月や万博後も増加傾向。来年の大河ドラマで舞台となるので効果を期待している。
		+55.3	+51.6			
長野県	昼神温泉 (阿智村 観光協会)	前年比増加率			60分/1便 /2100(4000)円	・万博の団体客、関東・東北・九州などからの来訪者が増加。中部圏内の個人客は減少傾向。万博目的の来訪者は宿泊のみの利用で温泉地での滞留時間が少ない。 ・9月は前年比約10%増。 ・今後は広域連携で海外からの誘客を始める予定。
		+10%	±0%	-5%		
静岡県	舘山寺温泉 (舘山寺温泉 観光協会)	前々年比増減(人)			85分/1便 (浜松駅発2便) /2000(3500)円	・個人客が増えている。 ・レートが合わず、外国人客対応は積極的に行っていない。 ・前年は好調だった定期観光バス「浜名湖巡り」や地元の飲食店利用が非常に少ない。
		+17000	+2000	変わ ない		

* 前年2004年同期は浜名湖花博の開催期間中だったため、前々年2003年と比較している。

当財団による各観光協会(旅館組合)への取材(9月1~9日実施)をもとに作成

図表2 愛知万博会場周辺における観光動向(観光関連施設)

周辺観光地における 観光施設等(施設数)		観光客数の変化 前年比増加率		
		4-6月	7月	8月
名古屋市観光案内所		既存の3箇所で約2倍		
所在地 分類	名古屋市内施設(7)	+41.6%	+55.4%	+18.6%
	名古屋市以外の愛知県内施設(9)	+9.7%	+46.8%	+23.9%
	岐阜市内施設(3)	+19.0%	+16.3%	+16.5%
施設タイプ 分類	観光レジャー施設(8)	-1.8%	+8.3%	-8.7%
	歴史文化施設(5)	+58.4%	+81.0%	+35.1%
	伝統・ものづくり施設(6)	+8.7%	+36.0%	+20.6%

当財団による愛知・岐阜の主要観光施設への取材(9月1日~9日実施)をもとに作成

図表3 主な愛知万博旅行商品と販売動向

ブランド名称/ 主な愛知万博専用 パンフレットの名称 (旅行会社)	主な旅行商品							販売動向 オリジナル特典など
	日帰りプラン*1			宿泊プラン*2		中人*4 料金 設定	手荷物 宅配 サービス	
	JR 新幹線 利用 (円)	貸切 バス 利用 (円)	万博会場 滞在時間	名古屋 市内 宿泊 (円)	周辺温泉 (西浦温泉) 旅館1泊 朝食プラン			
東京発 エース JTB / 「愛知万博への旅」 「よくばり愛知万博への旅」 「ファミリーで行こう愛知万博への旅」 (株式会社ジェイターピー*5)	17,800	13,000 (9/25 のみ 設定)	8時間*3	26,800 ~ 49,700	27,200 ~ 46,000		自宅へ (割引) 手ぶらで観 光(無料)	・送客目標は200万人(全国発エース JTB) ・東京発東海地区パーソナル販売状況は 7月300%、8月380%、中部地区周遊7月450%、 8月650%(8/20同時期比) ・2日間万博コース、日帰りコース、周遊では 万博+飛騨高山白川郷コースが人気 ・『るるぶ東海』プレゼントなど
ぶらっと / 「愛知万博への旅」「日帰 り1Day 愛知万博への旅」 など7種類 (JR 東海ツアーズ*5)	18,000		設定 なし	26,100 ~ 52,900	31,900 ~ 48,600		×	・東京発では名古屋宿泊コース(特に駅前マリ オット)日帰り「1DAY」万博+京都コース が人気 ・京都販売は万博+コース分が純増と好調 ・愛・地球博公式スタンプ帖プレゼントなど
メイト / 「愛・地球博への旅」など (近畿日本 ツアーリスト*5)	18,000	14,800	6~7 時間*3	25,300 ~ 48,100	26,900 ~ 45,900	×	自宅へ (無料) 手ぶらで観 光(有料)	・送客目標は110万人(全国発メイト) ・プレミアム3大ポイントを設定して対応 手荷物帰りは全国無料 てぶらでラクラク観光(有料) ナゴヤ魅力発見 BOOK プレゼント
JALSTAGE、マイツアー / 「JALTOURS で行く愛知万博」 (JAL ツアーズ)	・11空港発地で万博専用商品を作成 ・シングルルーム利用専用コース、入場券なしコースを追加投入 (ネット上で)							・方面別中部圏全体の販売状況は約2倍 ・札幌、福岡発万博商品が好調、札幌発は名古屋 IN 大阪 OUT が人気
ANA スカイホリデー / 「愛地球博への旅」 (ANA セールス&ツアーズ)	・19空港発地で万博専用商品を作成 (・ANAが名古屋発着路線で「愛・地球博早割21」を設定)							・送客目標は1万人

*1 7~9月出発の最低料金。ただし料金に含まれるサービス等の条件は商品毎に若干異なる

*2 7~9月出発、ひかり又はこだま利用の料金帯。ただし料金に含まれるサービス等の条件は商品毎に若干異なる

*3 片道夜行バス利用 *4 中人=満12~18歳未満 *5 共同周遊バス催行(毎日設定、2名以上催行)

当財団による取材(9月1日~9日実施)及びパンフレット、ウェブサイトなどをもとに作成

【付表】 JTB F観光経済レポート 付属統計表

2005年9月 9日現在

項目名		暦年	2002年	2003年	2004年	2004年			2005年		データ出所および注記		
						4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期			
国内旅行	発地	15～79歳 宿泊旅行量	(万人回)	-	21,841	r 21,512	r 4,772	6,469	5,647	4,570	p 4,574	(財)日本交通公社「JTB F旅行量調査」 注)本数値は暫定値であり、最新の調査結果の反映、および推計手法の改良により随時改訂される。 pは速報値、rは改訂値。	
			(前年同期比)	-	-	r 1.5	r 3.5	4.6	2.2	1.2	p 4.1		
	15～79歳 宿泊旅行単価	(千円/人回)	-	38.5	r 37.6	r 39.5	36.6	37.2	35.1	p 38.8			
		(前年同期比)	-	-	r 2.3	r 2.5	4.9	2.1	6.4	p 1.8			
	受地	入込総数	(D:値:%)	-	15.7	16.8	0.0	22.8	23.5	30.7	10.0		(財)日本交通公社「JTB F観光地動向調査」
			(前年同期比)	-	1.0	0.7	2.2	0.4	0.6	3.6	0.8		
		観光施設利用者数	(D:値:%)	-	19.7	18.7	2.5	20.9	25.1	37.1	13.6		
			(前年同期比)	-	4.6	1.7	2.9	0.8	1.1	4.6	1.6		
	受地	旅館	定員稼働率	(%)	40.0	40.5	39.6	36.8	43.2	39.9	36.2	36.4	(財)日本交通公社「JTB F宿泊客動向調査」 注)前年同期比の増加率は、各期の最新調査で得られたサンプルの回答をもとに算出。
				(前年同期比)	0.8	1.3	6.9	0.4	6.2	6.4	3.3	3.3	
		客室稼働率	(%)	57.4	57.5	57.0	52.5	60.7	57.3	52.5	54.1		
			(前年同期比)	2.0	0.2	2.4	0.0	4.2	4.7	2.6	2.3		
		一泊二食単価	(千円)	12.4	13.2	13.6	12.7	13.2	13.5	13.4	13.5		
			(前年同期比)	1.4	7.0	0.6	1.0	0.7	0.9	0.4	0.3		
		ホテル	定員稼働率	(%)	58.2	60.3	60.6	59.8	65.9	61.2	59.2	59.8	
				(前年同期比)	0.7	3.6	0.9	3.5	0.9	2.4	0.5	2.2	
	客室稼働率		(%)	69.1	69.1	69.9	68.9	74.3	70.8	68.4	68.9		
			(前年同期比)	3.0	0.0	0.3	3.1	0.5	1.5	0.7	1.5		
	ルームチャージ	(千円)	8.2	9.2	8.7	8.6	8.7	8.7	8.3	8.9			
		(前年同期比)	2.9	2.8	1.8	1.3	2.0	1.8	1.3	0.1			
運輸	航空旅客数	(万人)	9,565	9,669	9,377	2,226	2,530	2,364	2,253	2,226*	国土交通省「国土交通月例経済」 注) *6月分は主要8社の速報値による **6月分を除いたデータ		
		(前年同期比)	1.5	1.1	3.0	0.2	5.5	0.9	0.2	1.2*			
	鉄道	JR定期外旅客数	(万人)	327,355	328,554	329,883	81,784	83,016	82,440	81,259		56,523**	
			(前年同期比)	0.1	0.4	0.4	0.6	0.8	1.0	1.7		1.0**	
	新幹線旅客数	(万人)	27,853	27,713	28,917	7,163	7,513	7,214	7,179	5,253**			
		(前年同期比)	1.6	0.8	3.2	3.9	2.0	0.7	1.2	2.6**			
	高速道路通行台数日平均	(万台/日)	401	402	409	401	429	414	395	416		(財)高速道路調査会「高速道路と自動車」	
		(前年同期比)	0.5	0.2	1.7	2.0	1.5	1.7	0.8	3.8			
	主要旅行業者50社国内取扱額	(十億円)	3,329	3,301	r 3,190	756	901	831	712	782		国土交通省総合政策局旅行振興課	
		(前年同期比)	1.7	0.8	3.4	1.2	5.3	5.9	1.5	1.4			
海外旅行	日本人出国者数	(万人)	1,652	1,330	1,683	383	478	446	436	397	法務省 (2005年6月分はJNTO推計値)		
		(前年同期比)	1.9	19.5	26.6	96.4	31.9	14.9	16.1	3.7			
	旅行単価	(千円)	330.0	349.0	340.2	348.0	342.1	337.8	320.4	346.1		日本銀行、日本航空、全日空、法務省資料よりJTB F推計	
(前年同期比)		0.5	5.8	2.5	14.1	2.3	2.0	4.9	0.6				
主要旅行業者50社海外取扱額	(十億円)	2,242	1,801	2,304	530	722	597	530	571	国土交通省総合政策局旅行振興課			
	(前年同期比)	0.5	19.7	28.0	89.0	38.9	8.6	14.2	7.9				
訪日旅行	外国人旅行者数	(万人)	524	521	614	155	166	148	159	166	国際観光振興機構(JNTO) (2005年6月分はJNTO推計値)		
		(前年同期比)	9.8	0.5	17.8	56.0	8.9	6.5	10.3	7.1			
旅行単価(日本国内)	(千円)	-	196	199	204	195	206	188	201	日本銀行、国際観光振興機構(JNTO)資料よりJTB F推計			
	(前年同期比)	-	-	1.3	3.7	3.5	2.3	0.7	1.5				
主要経済指標	GDP(名目・原系列)	(十億円)	498,208	497,798	505,160	125,663	123,446	132,698	123,740	127,168	内閣府経済社会総合研究所		
		(前年同期比)	1.6	0.1	1.5	1.3	1.3	0.3	0.3	1.2			
	GDP(実質・原系列)	(十億円)	511,401	518,352	532,302	130,714	132,679	137,221	133,459	133,514			
		(前年同期比)	0.3	1.4	2.7	3.2	2.6	0.6	1.3	2.1			
	東京外為銀行間平均	(円/ドル)	125.3	115.9	108.2	109.7	109.9	105.9	104.4	107.6		東洋経済新報社	
		(前年同期比)	3.1	7.5	6.6	7.3	6.5	2.8	2.6	1.9			

JTB F観光経済レポート Vol. 8
(2005年4-6月期)

2005年9月発行

発行：財団法人日本交通公社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル9階

TEL 03-5208-4704 FAX 03-5208-4706

本書を許可なく複製することは固く禁じます。許諾については上記観光文化振興基金事務局までご照会ください。